

新座市本庁舎

施設概要

訪れた全ての人に親しまれる安心で快適な庁舎として、平成30年1月に開庁。

庁舎内のトイレの洗浄水として雨水を利用するほか、太陽光発電を設置、自然採光と換気を行うための工法を採用するなど、環境に配慮しています。建物は免震構造を採用しています。また、災害対策として停電時には非常用発電機により3日分の発電ができる燃料を備蓄するとともに、断水時においても3日分の飲料水・雑用水を確保しています。



雨水の用途

トイレの洗浄水

※ 新座市は、公共施設の新設及び改修に合わせ、積極的に雨水利用型設備を導入している。



本庁舎のトイレ

効果

水道使用量削減

雨水を年間約2,000m³利用。

水道料金削減

旧本庁舎と比べ、水道料金の約25%を削減の見込。

雨水の有効利用PR

雨水の利用をパンフレット等でPR。

担当者の声

雨水の利用を行ったことと節水型トイレを採用したことにより、旧本庁舎と比べ水道料金が約25%減りました。維持管理では大腸菌等の細菌の消毒のために薬品を投入したり、水の中に含まれている塩素の濃度を週に1回測定するなど、安全に使用できるように水質管理をしています。

雨水設備の状況

屋根側溝



集水口



集水枡



初期雨水除去装置

大気中の汚染物質など、汚れの多い降り始めの雨水を除去します。

集水

屋根のほか、敷地内の側溝や雨水ますで雨水を集めます。



雨水ろ過設備

集めた雨水をろ過します。



消毒設備

ろ過した雨水を消毒します。



中水受水槽（雨水・水道水）

雨水が不足する場合は、水道水を補給します。揚水ポンプで高架水槽に送った後、各トイレに給水します。

雨水活用施設データ

所在地	新座市野火止1-1-1		
施設の用途	事務所ビル		
建物の延床面積	12,735㎡	集水面積	2,084㎡
雨水の利用開始	平成30年(2018年)1月		
雨水の用途	トイレの洗浄水		
集雨場所	建物屋根のほか、敷地内の側溝、雨水ます		
貯水場所	免震装置の下(地下ピット部)	貯留容量	311㎡
年間の雨水使用量	約2,000㎡(推計)		
雨水不足時の対応	水道水を使用		